

2012 3/27

No.1919

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

— 神奈川政経懇話会 —



箱根町仙石原に広がるススキ草原（約18㌔）で14日、恒例の「山焼き」が行われ、炎は一帯を墨色に焦がしながら草原を駆け抜けた。秋になると黄金色の穂をなびかせる同草原は「かながわの景勝50選」の一つ。



contents

視点・点描	3
夢見るころを過ぎても…	
講演録	4
「心を動かすリーダーシップ」 横浜市長 林 文子	
国際	8
平壤宣言活用した日本外交を 北朝鮮、中長期的に多くの課題	
経済	10
公共施設クライシスに備えよ 学校拠点に複合化を	
くらし2012	12
在宅支援を強化	
広告珍談	14
～キキメある人と顔と ドクターは広告塔	
経済ニュースから	15
神奈川新聞の経済ニュース	

事務局だより

◇横浜定例講演会

2012年4月18日（水）

13時30分～15時

ホテルキャメロットジャパン

講師は東京大学大学院教授の

藤原帰一氏

演題は「東南アジアの現在

アメリカ・中国・日本の間で」

◇横浜定例講演会・総会

2012年5月14日（月）

崎陽軒・本店

・講演会

13時30～15時

講師は政治評論家の森田実氏

演題は「政局の展望」

・総会

15時15分～16時

視点 点描



夢見るころを過ぎてても…

テレビのコマーシャル（CM）で気になる作品がある。あるカード会社のCMで結構頻繁に流されているので、ごらんになった方も多いはずだ。

湖畔のキャンプ場といった設定だろうか。星空の観測の合間に交わされる父親と娘の会話は、上質なドラマの一場面を見せられているかのようで、ついつい引き込まれてしまう。

父親「将来の夢は何なの？」

娘「パパみたいな建築家になること。だって、かっこいいじゃん」

娘役は横浜市出身の子役・荒川ちかさん。自分と同じ職業を選択しようとする愛息あるいはまな娘を前にして、誇らしく感じない父親はこの世にはいるまい。「ツボ」

を心得たベストアンサーに、父親の個性派俳優・小市慢太郎さんの口元が思わず緩んでいる。この

作品の俊逸なところはわずか30秒の放送時間の中にもう一段のヤマ場が用意されているところだ。

「パパの将来の夢は何？」

今度は娘が質問する番だ。しかし、ここで父親は言葉を詰まらせてしまう。

「えっ、だってパパはもう…」

はやりの表現を借りれば、想定外の質問だったからである。社会人として家庭を築き、子どもの将来設計を案じる身になった大人は大抵の場合、夢見るころをとうに過ぎていく。現状で満足していいの？ もう歩みを止めてしまったの？ 純真な子どもの問いかけが心に染みたのか。「夢か。よーしっ」。CMは小市パパのセリフで終わる。

世の中には、答えに窮するような質問があるものだ。つい先日、中学生向けの職業講話をする機会

があり、生徒にこう尋ねられて立ち往生しそうになった。

「これまでの記者生活で最もうれしかったことは何ですか」「一番の特ダネはなんですか」

書いてナンボの記者家業に就いて30年近く。語れる成果の乏しいわが身を振り返って冷や汗をかいだ。その場しのぎの答えはかなり「ツボ」を外していたに違いない。生徒の皆さん、ごめんなさい。

まさか、夢見るころは過ぎたなんて言いませんよね？ 希望という言葉が服をまとったような、きらきらした瞳の持ち主が記者に聞いたかったのは、突き詰めればこの一点ではなかったか。説き聞かす立場で臨んだのに反対に教えられていた。子どもたちの発する「問い」はここでも、鋭かった。

（神奈川新聞社

統合編集局次長 宮本 敏也）

ドクターは広告塔

「父」と「母」がいる。「兄」と「弟」、「姉」と「妹」に「姪」もいる。「媒」しゃくにんが、「髻」どのに「嫁」をくつつけた。と、「孫」ができた。

どれもこれも、島の名前である。父島に母島など、30ほどもある小笠原諸島。家族そろったみごとなネーミングではないか。それだけでも、行って見たくなる。効果があつたのに、世界自然遺産というカシムリがあつた。

2011(平成23)年6月24日、小笠原諸島はユネスコに登録。それから2カ月後、ボクは父島に上陸した。諸島に空港はなく、アクセスは週1回の定期船のみ。ほかには、ボクが乗って行った「ばしふいっく・びいなす」号など、クルーズ客船である。横浜を出港し



ることになるガラパゴス諸島が、エクアドル本土から1000kmも離れているのと似ている。そこがなぜ、世界自然遺産になったのか。ガラパゴス諸島がそうであるように、小笠原はいかなる大陸とも陸続きになつたことが

なく、貴重な動物や昆虫や植物が、みちみちているからである。なるしろ「タコの木」など植物の36%が、「オガサワラゼミ」など昆虫類の28%が、「オトメカタマイマイ」など貝類の94%が、この島々にしかない固有のものという。

進化論を提唱したイギリスの生物学者ダーウインが訪れ、動植物を研究して『種の起原』を執筆す

広く知られる、横浜市大の名誉教授。話はこうだ。

1853(嘉永6)年、開国をせまつて浦賀に向かうペリー提督が父島に上陸。兄島や弟島も調査した。出会つたのは、つい先年に住みついた欧米とハワイの数人。

それ以前は無人島であつた。離島の固有種は、人間によつて変化する。ガラパゴス諸島が世界遺産に指定されてから、わんさと人が上陸し、いまや危機遺産になつてしまつた。

大丈夫、小笠原へ行くには船しかないよと西丸さん。海に魅せられ、その船が就航以来、15年も乗り組んでいるドクター。やさしく博学な西丸さんをしたつて、船旅をたのしむリピーターの多いこと。まさに、ばしふいっく・びいなす号の広告塔である。

(美術エッセイスト、茅ヶ崎市在住) (図) 父島の二見湾に停泊する、ばしふいっく・びいなす号